

JAPAN HERITAGE



KITAMAE-BUNE

特集 竹原市、日本遺産に初認定！

日本遺産に認定

竹原市は、5月20日、「日本遺産」に初めて認定されました。

日本遺産とは、地域の歴史的魅力や特色をまとめたストーリーを文化庁が「日本遺産」に認定するもので、本市は北前船の寄港地としてま
ちが繁栄した歴史があることから、日本遺産「北前船寄港地・船主集落」に追加認定されました。

本市はこれまで、昭和57年に「重要伝統的建造物群保存地区」（町並み保存地区）に選定、平成24年に「歴史的風致維持向上計画」の認定を受けており、今回の「日本遺産」認定で、昭和、平成、令和と、3つの時代にわたり、地域の歴史や文化を守り、発信してきたことが、国から高く評価されたこととなります。

6月19日には、酔景の小庭と森川邸で日本遺産追加認定記念行事として、セレモニーと講演会を挙行了しました。



▲認定記念行事で合唱する竹原小学校5年生・6年生 70人

北前船とは

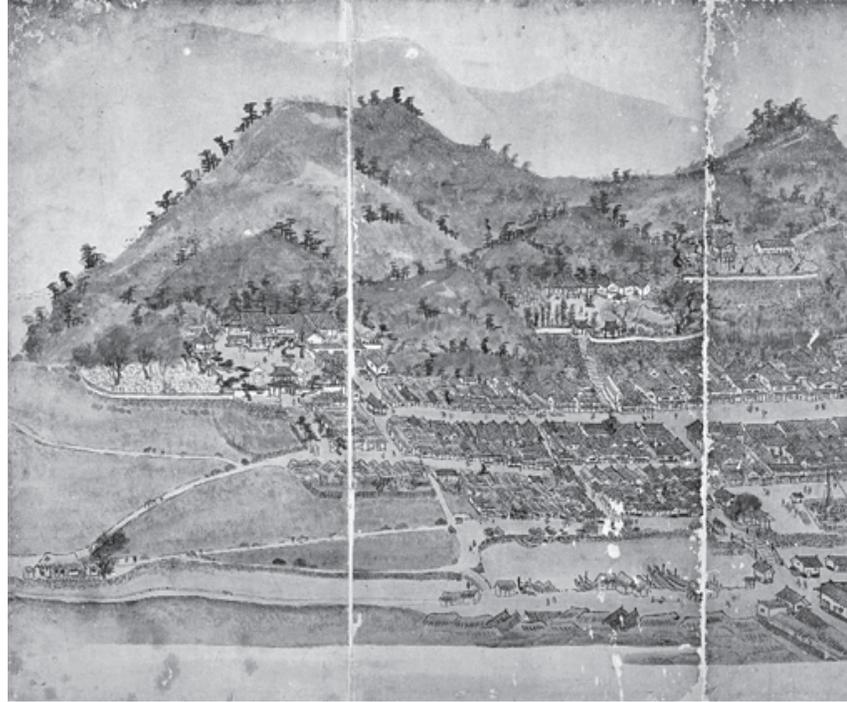
江戸時代中期から明治30年代にかけて、大量の荷物を積んで北海道から大阪まで日本海廻りで往来した船です。



▲日本遺産認定証交付式で、代表スピーチを行う今榮市長（大阪市住吉大社）



▲福井県立若狭歴史博物館提供「井田家所蔵古写真」



紙本著色竹原 ▶
絵屏風
北前船の商人による塩の買い付けなどで繁栄した1800年頃の竹原の町並みを描いた絵屏風。市重要文化財。

◀「塩浜万覚書」
嘉永元年（市立竹原書院図書館蔵）

竹原での北前船の商い

上の屏風は、一八〇〇年頃の竹原下市（現在の町並み保存地区の周辺）を描いた屏風です。竹原下市の西側（屏風では下側）に本川が瀬戸内海（屏風の右側）へと流れています。

本川は満潮時には、中型船・小型船が入ってくることができたといいますが、北前船などの大型船は、横島（竹原町明神付近）に船を停め、竹原で買い付けた塩などの商品を、上荷船で運び、積み込みました。

江戸時代後期の文人津田澂庵は、随筆集『譚海』の中で、「北廻りの船はみな讃岐の金毘羅権現へ参詣する也、扱安芸の竹原に船をよせて、塩を買って北国へひさぐ事、常の事也」（北前船は、みな讃岐の国の金毘羅権現にお参りする。その後、安芸の国竹原に船を寄せ、塩を買って北国で商売するのはいつものことだ）と記しています。

北前船は竹原塩販売の上得意

北前船は、竹原塩をどのくらい買っていたのでしょうか？

幕末の弘化2年（一八四五）には、竹原塩の生産量は、「十六万六千四百九十七俵」で、その半数以上に当たる「八万三千四百四十三俵」が北国行と記されています。まさに、北前船は竹原塩販売の上得意だったのです。

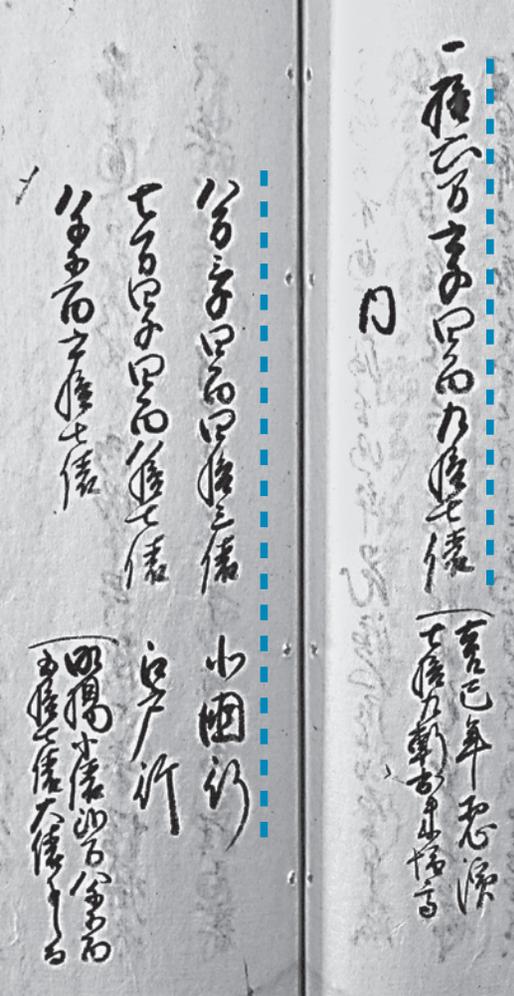
交易を通して、北前船は、竹原のまちの繁栄に、大きく貢献していたのです。

現在、日本遺産認定を記念し、町並み保存センター2階において、特別展『北前船と竹原』を令和2年3月29日(日)までの期間で、開催しています。忠海の常夜灯や、古文書についても解説していますので、ぜひお越しください。

問い合わせ

教育振興課文化財保護係

☎ 22-23328



▲忠海の常夜灯



▲羽白家「御客帳」